

# 火災・警戒統計



# 火災統計 (平成30年中)

## 火災件数

火災件数は44件で、前年と比べ1件の減少となり、昭和40年以降で過去3番目に少ない火災件数でした。

火災件数を種別ごとにみますと、建物火災23件(52.3%)、林野火災0件(0%)、車両火災6件(13.6%)、その他火災15件(34.1%)でした。

## 住宅用火災警報器の奏功事例

火災にはなったものの、住宅用火災警報器が鳴動したことにより被害を最小限にとどめることができた事例が2件ありました。

住宅防火対策として、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられており、小牧市では、設置率向上と維持管理促進のため、一般家庭の防火査察、防火広報など、あらゆる機会を捉え、普及啓発活動を実施しています。

## 火災原因

出火原因別にみますと、「たばこ」が5件(11.4%)と最も多く、続いて「たき火」が4件(9.1%)、「火あそび」及び「溶接機・切断機」が3件(6.8%)となりました。

「たばこ」及び「たき火」による火災が多く発生していることから、一人ひとりが火の始末、屋外での火気の取扱いに伴う火災防止を徹底しなければなりません。

## 火災による損害及び死者・負傷者

火災による損害額は、795,661千円で、前年と比べ687,530千円の増加となりました。これは、大規模な工場火災が発生したためです。

また、火災による死者は1名で、前年と比べ1名の減少となりました。負傷者は6名で、前年と比べ1名の減少となりました。